

会 議 録

| | | |
|--------|---|---|
| 名 称 | 酒田市子ども・子育て会議（平成 26 年度第 4 回） | |
| 議 題 | 議事 （1）酒田市子ども・子育て支援事業計画（案）について （2）その他 | |
| 開催日時場所 | 平成 26 年 12 月 25 日（木）午前 10 時 00 分～午後 0 時 05 分 酒田市役所本庁舎 4 階 議会会議室 | |
| 出席者 | 委 員 | 池田委員、赤松委員、北谷委員、佐藤委員、山口委員、石垣委員、 宮田委員、加藤委員、武田世津委員、大滝委員、武田真理子委員、 岩間委員、村上委員 |
| | 事務局 (所管課) | 子育て支援課 |
| | 関係課等 | 福祉課、健康課 |
| 会議の概要 | ※詳細別紙 | |
| 配付資料 | 資料 1 酒田市子ども・子育て支援事業計画（案） 資料 1-1 資料 1 の変更点 資料 2 酒田市子ども・子育て支援事業計画（案）【ダイジェスト版】 資料 3 施策の効果の検証につなげる評価指標及び数値目標の設定 参考 1 ニーズ調査の単純集計結果（小学生分） 参考 2 後期行動計画からの具体的施策の主な変更点 参考 3 委員事前提出資料 参考 4 児童虐待対応の流れについて | |
| 特記事項 | 傍聴者 1 名 | |

別紙

酒田市子ども・子育て会議（平成 26 年度第 4 回）（要旨）

1 開催日時：平成 26 年 12 月 25 日（木）午前 10 時 00 分～午後 0 時 05 分

2 場 所：酒田市役所本庁舎 4 階 議会会議室

3 出席者：

委 員 池田委員、赤松委員、北谷委員、佐藤委員、山口委員、石垣委員、
宮田委員、加藤委員、武田世津委員、大滝委員、武田真理子委員、
岩間委員、村上委員（13 名）

酒田市 福祉課長、健康課長、子育て支援課（事務局）

4 議 題：

議事

(1) 酒田市子ども・子育て支援事業計画（案）について

(2) その他

5 配付資料：

資料 1 酒田市子ども・子育て支援事業計画（案）

資料 1-1 資料 1 の変更点

資料 2 酒田市子ども・子育て支援事業計画（案）【ダイジェスト版】

資料 3 施策の効果の検証につなげる評価指標及び数値目標の設定

参考 1 ニーズ調査の単純集計結果（小学生分）

参考 2 後期行動計画からの具体的施策の主な変更点

参考 3 委員事前提出資料

参考 4 児童虐待対応の流れについて

【 午前 10 時 00 分開会 】

○進行（子育て支援課長補佐）

これより平成 26 年度第 4 回子ども・子育て会議を開会いたします。

暫時の間、進行を務めさせていただきます、子育て支援課 課長補佐の長村と申し上げます。よろしくお願いいたします。

なお、本日は酒田市 P T A 連合会の佐々木委員、酒田地区私立幼稚園 P T A 連合会の石垣委員、酒田特別支援学校 P T A の前田委員、酒田市法人保育園協議会の近藤委員、酒田市自治会連合会の齋藤委員、酒田市小学校長会の大通委員、公益社団法人酒田青年会議所の櫛引委員より、欠席の連絡をいただいております。

20名の委員中13名のご出席をいただいております。過半数の委員が出席しており、子ども・子育て会議条例第7条第2項に定める定足数を満たしておりますので、会議を開催させていただきます。

それでは次第に従いまして進めさせていただきます。2.議事につきましては、議長の武田会長にお願いしたいと思います。それではよろしくお願ひいたします。

○武田会長

おはようございます。年末のお忙しい時期に集まっただき、ありがとうございます。たくさん資料を送付いただき、今日配付の資料もありますので、事務局にはなるべく簡潔な説明をお願いし、皆様から多くの議論、アイデア、ご提案をいただければと思います。

それでは、早速議事1に入ります。今回、初めて冊子の形で出てきました計画案について事務局から説明をお願いします。

○事務局（子育て支援課長、家庭支援係長、家庭支援係主任）

おはようございます。前回8月7日の会議から少し期間が開いてしまったので、これまでの動きについて若干説明をさせていただきます。

前回までの会議でご審議いただいた新制度に係る市基準については、9月議会で可決いただきまして、国の制度施行と同じ平成27年4月から施行が予定されているところです。

また、新制度に基づいての園児募集も10月に始まっておりますが、それに合わせて幼稚園、保育園の事業者向け説明会を開催し、保護者向け説明会を市内5カ所で行っております。

本日の事業計画案については、5月の会議で議論いただいた計画の骨子に基づいて、庁内のワーキンググループと推進委員会で煮詰めたものが資料1となっております。あくまで案ですので、皆様からご意見をいただきたいと思ひます。

計画は6章立てになっており、基本的には子ども・子育て支援法に基づく「市町村子ども・子育て支援事業計画」として策定するものですが、国の補助メニュー活用の対応やこれまでの取り組みの継続性という観点から考え、次世代育成支援対策推進法に基づく「市町村行動計画」としての位置づけも行いたいと考えています。

施策の体系については、P.37の体系図にもあるとおり、7つの柱となる基本施策の下に21の方向性を定めており、それに対する重点課題と具体的な取り組みを盛り込んだ内容となっております。また数値目標についても可能な限り盛り込んで、実効性を持たせたいと考えております。これらについて、後ほど詳しく説明をさせていただき、皆様にご意見をいただきたいと考えています。

日程については、本日いただいた意見を踏まえまして、可能な限り反映させて明日から平成27年1月16日まで、正月休みを挟んで多くの方に見ていただきたいという

ことで、パブリックコメントを実施する予定となっております。

【資料1、資料1-1、資料2、資料3に基づいて説明】

○武田会長

膨大な内容なので、かいつまんで説明をいただきました。たくさん論点もある中で、私から簡単に問題提起をさせていただきます。

1 点目はダイジェスト版の内容について委員の皆さんにご意見をいただきたいと思えます。計画書本編は冊子も厚く、市民の皆さんにはなかなか広く読まれにくいと思うため、ダイジェスト版が重要になってきます。委員の皆様をお願いしたいのが、事業計画といっても市民にとっては距離を感じるの、ダイジェスト版が身近で手に取りやすく感じるような愛称を考えてほしいと思えます。合わせて、委員の皆様に盛り込むべき内容をおうかがいしたいと思えます。例えば絵や写真などであまり知られていない事業や場所、人の紹介になるような内容など、情報の発信も兼ねたダイジェスト版になればと思えます。

2 点目は、先ほども事務局から人口減少問題に関連して、市役所の庁内でも子どもや子育て中の家庭を支えるという本計画に寄せる思いが大きいという話がありました。委員の皆様からどんなことが必要なのか、それぞれの立場でどんなことができるのか、建設的なご意見をいただき、可能なものは計画に盛り込んでいければと考えています。

それでは早速ですが、参考3にあらかじめ山口委員、近藤委員、櫛引委員よりいただいていた意見がありますので、そちらから先に取り上げます。

なお、櫛引委員の最後の意見については、私の思いとしては、毎回、回答はしていただいていると思えますが、解決はしていないという思いが委員の中にあるのだと思えます。子ども・子育て会議は意味があるのかや、なかなか前に進んでいないという印象が委員の皆様にもあるとは思えますが、ただ、先ほどの説明にもありましたように、行政や政治だけにしかできないこともあります、それだけではなく、地域社会全体で何をしていけるのか、という内容を考えていかなければいけないのがこの計画です。

今日の会議、あるいはパブリックコメント、また2月に議会があるようですが、それまでに、皆様から具体的に何ができるかというご意見、提案、アイデアなど出していただくことで、なお一層進むのではないかと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、山口委員から参考3について補足があればよろしく願いいたします。

○山口委員

幼稚園連合会の山口です。1と2については、教えていただければありがたいと思えます。3については、基本理念にもありますが、計画書もじっくり読ませていただいて、このとおりになればよいと思うところです。ぜひよろしく願いいたします。

補足としては、1 については、今後の人口減少問題の対策としては少子化の解消というところがあると思うので、市で協議を行っているということでぜひ教えていただきたい、またその中に幼児期の教育・保育というところも加えていただきたいというところでは。

2 については、5～6 年前までは酒田市は県内で一番幼稚園に良くしてくれる地域ということで評価されていたのですが、今は申し訳ないですが一番下の方になっていきます。他市の取り組みについてピックアップして示してみたので、ぜひ今後見直しをしていただければという思いで書かせていただきました。

特に鶴岡地区では就園奨励費の枠を拡大していますが、他の市町村では中学 3 年生までの拡大を検討しているという情報もあります。少子化の解消の観点から、ぜひ県内だけでなく、他県の情報も参考にしながら、実施にはお金がかかるのも承知してはありますが、そういったところも検討していただければと思います。よろしく願います。

○武田会長

ありがとうございました。3 については、以前も大滝委員からご意見がありましたが、この計画も子どもの最善の利益を実現するための環境づくりを進めていこうというところですが、細かいところはいろいろご意見があるところだと思います。

これについて、今日は欠席ですが、近藤委員からいただいたところも関連性があると思いますので、事務局の方から回答をお願いします。

○事務局（子育て支援課長補佐）

子育て支援課の長村と申します。山口委員と近藤委員からのご意見について、私の方から回答いたします。

まず、山口委員からの 1 番目について、人口減少対策は子育て支援からということでご提案をいただいております。人口減少については本市の最大の課題ということで、皆様にもお知らせしていたとおりです。ただ、人口減少については、様々な要因があり、その中でも子育て支援策は子育て世帯に直接働きかけるという点では、最も効果のある対策という認識をしております。

ただし、今回の計画にあたっては、人口減少対策からスタートということではなく、子育てしやすい環境を充実・強化していくことによって、子どもの幸せの実現を図り、子どもを産み育てようとする方が増えていくことで人口減少の解消に寄与していく、そういった観点で事務局としては捉えているところです。

それから、独自の施策ということでご意見をいただきました。今回の計画の一番の違いということでは、具体的な事業としてはなかなか挙げにくいのですが、前計画からの子育て支援という親への支援という観点に加えて、先ほどから話題になっている子どもの最善の利益がキーワードになっております。それに関して計画の目標を設定したという点が最も違う点だと捉えています。

また、市独自の大胆な施策をということでご提言をいただいております。考え方としまして、効果を上げるためにはある程度大胆な施策が必要という点については大いに共感するところであり、必要性についても認識しているところですが、先ほど委員

の方からもありましたように、そうした事業には大きな費用が必要になってくることがあります。さらに、その費用も一時的なものではなく恒常的に必要になってくるものですので、財源を見つけながら、計画を進めていく中で具体化していきたいと考えています。

それからこの会議の意義についてですが、条例で設置された会議ということもあり、皆様からいただいたご意見については最大限配慮するという内容になっておりますし、今後の市の政策決定の参考にさせていただくということになります。

それから、幼児教育の環境整備についてです。先ほど山口委員からもありましたとおり、他市町村の動向についても小耳に入ってくるのですが、少子化対策の観点から酒田市としてはどういった幼児教育・保育の環境整備策が効果的なのかということも検討をしているところです。先ほどの1についてもそうですが、具体的な事業の中身については予算の裏付けが必要でございます。新年度予算の中でも、支援に向けた要求については一定程度行っているところではありますが、中身についてはまだお示しできる段階にはないというところであり、ご理解をいただければと思います。

いずれにしても計画が策定されれば、計画の方向性に沿って環境の充実化が図られていくということです。

3についてもコメントをさせていただきます。子どもの最善の利益に配慮することについては、1でも触れさせていただきましたが、計画の目標に掲げたということは今回大きく変わったところであり、委員のおっしゃる心ゆくまで子どもに愛情を注げる環境というのも大変重要であると考えています。

具体的な協議をという点について、この会議で分科会も開きながらということも当初考えていたわけですが、これについて実現に至らなかったということがあります。今後とも、具体的な中身についてはこの会議の中でいろいろとご提案いただけたらと考えておりますし、できるものについては対応させていただきたいと考えています。

山口委員については以上でございます。

○武田会長

はい。では山口委員からお願いします。

○山口委員

財源についてお話がありましたが、ニーズ調査の集計の方でも、子育ての不安感・負担感を感じる理由として最も大きいのが経費ということで、整合性もあるところで、ぜひとも進めていただければと思います。

○事務局（子育て支援課長）

その点につきましては、私共としても認識しているところですし、できれば進めていきたいと考えています。

○武田会長

余談ですが、今回の計画では貧困というところに関して、大きな柱立てにはしていませんが、取り上げていきたいということ事務局より聞いております。東北公益文科大学でも受託事業で家庭教育のアンケートを実施するのですが、今年のニーズ調査では聞いていない世帯の所得なども質問させていただいております。2月下旬くらいには単純集計を出せればと考えておりますので、そのあたりも情報提供し、具体的な部分の参考になればと思っております。

それでは近藤委員からのご意見について、お願いいたします。

○事務局（子育て支援課長補佐）

近藤委員からのご質問について回答します。1 つ目の公立保育園と法人立保育園の保育士の配置基準の格差についてということで、ご質問をいただいております。

たしかに保育士だけで見れば、酒田市の方が少し手厚いような表記にはなっております。この経緯について遡って調べてみたのですが、明確な資料はない状況であり、あくまで推測の範囲でしかないのでありますが、法人立の場合には市が負担する費用の中に 90 人以下の定員の場合には、保育士 1 人を配置するとか、クラス替えの主任保育士を置いた場合には加算する手立てがあるとか、そういう面で国の最低基準に加算ができるという面があります。こちらの部分については、公立保育園については市が負担する費用はないことから、そうした基準については該当していないということであり、配置基準の中での一定の調整を図ったのではないかとということが考えられます。

実際、法人立で 90 人以下の定員の園で主任保育士を置けば、国の配置基準より 2 名多く配置されるということになりますので、そうしたケースで比較した場合については、さほど差はないと思われるところもあります。ただ、あくまで推測の域を越えないところであり、こういったことも考えられるということです。

保育士の配置数につきましては、質の確保を考えていった場合、非常に重要なことで、国の方でも今後 3 歳児の比率の見直しを図っていくということについては既に名言しているところであり、方向性としては徐々に保育士と子どもの配置基準は、より保育士を増やす方向に変わっていくものと考えております。

酒田市としても、こうした違いを含めて、将来、消費税の財源が満年度化した暁には国の配置基準も変わっていくことが見込まれますので、それに向けて公立と法人立の配置についてどういった対応ができるか検討していきたいと考えています。ただ、何度も同じ話になりますが、独自にやった場合にはかなり大きな財源が必要になりますので、その辺りは大きな課題です。

質の高い幼児期の教育・保育の提供については、今後取り組んでいきたいと考えております。

次に、計画の中で、研修と保育士の処遇改善についてご意見をいただきました。処遇改善については、現在も国の補助を受けて実施をしているところであり、補助制度が続く限り継続して支援を実施していきたいと考えています。研修費については、今も幼稚園さんも含めて一定の支援を行っていますので、これについても継続していく方向で考えています。

それから、ワーク・ライフ・バランスの関係で、保育時間や保育機会を短くしていく労働時間を模索していく必要があるのではないかとのご意見をいただきました。そうした意見もあると思います。保育の提供もワーク・ライフ・バランスも、支援においてはこちらも大事で、問題はバランスなのだと思います。片方に偏るのではなく、両方について検討していかなければならないものと考えています。

事務局としては、子どもの最善の利益に配慮しつつ、様々な状況に置かれている保護者の選択の幅が広がるように、いろいろな支援が使える、自分の生活パターンに合ったような保育が受けられる環境の整備が、今の状況の中では一番取り組むべき課題であると考えています。

いずれにしても、職場と保育の提供の場の両面において、子育て支援の環境整備を推進していきたいと考えております。

○武田会長

ありがとうございました。最後に、委員の皆さんに活発なご意見をいただくために、櫛引委員からの最後の質問で児童虐待については本日も資料をつけていただいております、以前の会議でもご説明いただいているところですが、酒田市では要保護児童対策協議会の開催数も非常に多く、関係機関との連携も進んでいるということですが、事務局から補足があればお願いします。

○事務局（子育て支援課長）

はい、資料のとおりなのですが、酒田市では児童虐待対策にもとても力を入れておりまして、2ヶ月に1回、要保護児童対策協議会を開いて、関係機関と情報共有を図りながら、また守秘義務もしっかり守りながら、丁寧に見守っていますので、ご認識いただければと思います。

○武田会長

ありがとうございます。できるだけ件数が減るように、各方面でつながっていければと思います。櫛引委員の意見について、残りの1つをお願いします。

○事務局（子育て支援課長補佐）

子ども・子育て会議の存在意義について、発展的見解を示してください、ということがありました。

この会議につきましては、計画策定については今年度で一旦終わるわけですが、来年度以降は計画の進捗状況を毎年度点検して評価をしていただくという業務が残っておりますし、そこが一番の肝心なところでありまして、その中でいただいたご意見については最大限施策の中に反映させていくよう努めていく、というところが子ども・子育て会議の位置づけになっております。

計画についても先ほど担当から説明があったように、大きな変更が必要な場合には中間年にも見直しをしていくということがありますので、そうした場合にも子ども・子育て会議の意見が重要になってきます。

また委員の構成も多岐にわたっておりますので、委員の皆さんの中で子育てに対する取り組みについて共有していただき、連携していただきながら、面的な支援をどんどん広げていくということについても、この会議のあり方として意義のあるものと考えております。

○武田会長

御三方からいただいた意見について、皆様からいかがでしょうか。山口委員どうぞ。

○山口委員

要保護児童対策協議会について、本当によくしていただいていると思っております。ニーズ調査のデータの中でも、市や関係機関がそういう関わりを持っているところが市民によく伝わっていないんだなと思います。そういうところで、櫛引委員からご意見やご質問が出たところだと思いますので、個人情報という点で難しい面もありますが、上手に広報していただければいいのではないかと思います。

○武田会長

事務局どうぞ。

○事務局（子育て支援課長）

わかりました。児童虐待防止の強調月間についてはこれまでも実施しておりますが、それ以外にもできないか検討してみます。

○武田会長

では、赤松委員。

○赤松委員

この資料をもらったときに、虐待を見ても通報先を知っていた方が 28%しかいないという状況になっていて、新聞や固定電話もないという方が私たちの世代にはたくさんいて、何が一番伝わるかといえば、全家庭に配布される広報誌（私の街さかた）などは媒体としてとてもいいと思います。そこで、その裏面の一カ所どこかに、通報場所や困ったときはこちらへ、などと毎号必ず載せるようにしたらどうかと、資料を見たときに感じました。みんなに伝わりやすいし、すぐにでもできることだと思います。

○武田会長

ありがとうございます。いかがでしょうか。

○事務局（子育て支援課長）

はい、市の広報は毎月 2 回出ております。担当部署などとの協議が必要なので、明確な答えはできないのですが、検討してみたいと思います。

○武田会長

新聞はあまり読まれないという方も最近は多いとは思いますが、子どもの最善の利益って何なの？という話になりますが、もう少し新聞やメディアの方でも児童に関連する連載や特集を組んで、酒田市ではこういう取り組みをしている、などそういうことをもっと発信していかないといけないということ、山口委員や赤松委員のお話を

聞きながら感じたところです。

それでは佐藤委員。

○佐藤委員

ひとつ質問ですが、このダイジェスト版はどこに配布されますか？ 全子育て世帯に配布されますか？ もし若い世代に行くようであれば、直接市のHPにアクセスできるような見せ方であるとか活用方法であるとか、会長からあったネーミングであるとか、そういった点は工夫できるかと思います。

○事務局（子育て支援課長）

具体的な配布場所は、これから検討するのですが、特にお子さんのいるところには配布したいと考えておりますが、効果的な方法など皆様からご意見があれば、できるだけ反映したいと考えています。

○武田会長

先ほどのHPへのアクセスはQRコードの使用などの手法があると思います。事務局で追加があればどうぞ。

○事務局（子育て支援課家庭支援係主任）

広報にも特集記事のスペースもありますので、計画ができた際には特集記事での紹介や、HPでの掲載なども検討していきたいと考えています。

○武田会長

北谷委員どうぞ。

○北谷委員

ワーク・ライフ・バランスの推進について、事業所向けにどういった取り組みを推進していくのかがわからないので教えていただきたいと思います。

自分の経験で、第一子を産んだときに正社員だったのですが、職場の環境により退職せざるをえませんでした。そのときの会社は山形市に本社があったのですが、就業規則がきちんと整備されていませんでした。

子どもを産んでから、何社か面接し、今は契約社員で働いていますが、今の会社は仙台市に本社がありますが、就業規則もきちんとしていて働きやすい環境にあります。

面接などでは、子どもがいると煙たがられるという雰囲気はあり、特に酒田を中心とした中小企業だと、子どもがいることで就労への支障がないのか、ということ強く聞かれ、何社も落ちました。私の友達の勤務先では、子どもを産むとパート扱いになるところもあり、正社員は未婚の方のみという企業もあるみたいです。

酒田市の企業の社長さんの考え方が、ちょっとずるいというか、ワーク・ライフ・バランスに沿っていない企業もあると思うので、もう少し出前講座など出向いていただけたらなと思います。よろしくお願いします。

○武田会長

ありがとうございます。池田委員も関連してのご質問ですね。

○池田委員

はい。私もちょうど同じことを質問しようと思っていたところです。アンケートの結果を見ても、子どもの病気のとくに看護休暇をとれないとか、育児休暇もそうですが、そういう部分の取り組みは市がやる部分はそう大きくないと思うんです。労働基準監督署や、商工会議所さん等と連携してやっていけないといけない部分だと思うので、市だけではきっとできないところだと思います。

今日はせっかく岩間委員もいらっしゃいますので、市にやってと言うだけでなく、商工会議所さんと連携して何かできないのかなとか、そういうところを話し合えればいいと思っていました。

では、計画の中ではこういった具体的施策があるのかなと見ていたら、情報提供だとか、そういったところしかないと見たので、もうひとつくらい、何か他市でやっているところなども出せないかなと思いますし、岩間委員にはお詳しいところでご紹介いただければと思います。

○武田会長

ありがとうございます。実は次世代育成支援のときにも重要な課題だったのですが、行動計画の中で個人的には一番進まなかったところかなと思っているところですし、岩間さんもずっと一緒にやってきた中で、難しさも感じているところだとは思いますが、いかがでしょうか。

○岩間委員

私もワーク・ライフ・バランスについて、自身でいろいろと学ぶ機会がある中で、先進的な事例を探したのですが、なかなか酒田市の中では少なく、山形市なり他県などではいろいろ具体的にやっているところはあるのですが、やっぱりそういった事例を踏まえて、これならうちの会社でもできるかなというような思いを持つ企業が増えてくればまた変わってくると思います。

本当にここでこういうことをしたらいいですよ、ということと言えないのが心苦しいのですが、事業主の意識を変えないことには働く人が困っているという状況は全然変わってきません。私も計画の策定のところで、数値目標のところを見ていまして、山形県いきいき子育て応援企業の登録については、登録をするためには就業規則などを変えなければいけないので、そこで会社の体制も変わるのではないかなと思うのですが、その数値目標が5年間で3社しか増えないのはまだまだ少ないのかなと思います。あとセミナーを開催しますと言いましても、企業向けにがっちり意識を変えてもらうためには、対象を具体的にしていかなければならないと思います。

本当にこうやって困ってるんだという従業員の思いを、きちんと社長さんにぶつけ

るということをしていかないと、やっぱり響いてこないと変わっていかないのかなと思います。

○武田会長

池田委員お願いします。

○池田委員

個人的にすごく思っているのは、できるかできないかが別にして、そういう規則や看護休暇、育児休暇などの取り組みをしている企業に対して、例えば市のいろんな企業助成制度の条件までできるかはわかりませんが、そういう企業に優先してそういう制度を活用しますとか、あと実際に介護や医療の企業でも、何対何の加算の基準を満たすには看護休暇も取らせられない、そういった基準について看護休暇は除くなどの緩和ができないのか、特区などでないと難しいのかもしれませんが、それくらい何かしないと、企業さんも必要な従業員数を確保するのも難しいというところもあると思うので、そういう制度的な支援という面については個人的には酒田市として考えていただきたいと思います。

○岩間委員

施策の体系の中の、独自優遇策の実施検討というところになるのでしょうかね。

○武田会長

全国での取り組みは岩間委員もご存知のところだと思いますが、例えば入札の条件にするなどの取り組みもあったり、いろいろな技術的な工夫という面でできるところもあると思いますし、あとはワーク・ライフ・バランスを推進しているところの企業説明会をやる等、そこにいっぱい人が来れば周囲の企業も「おやっ」と思うことになるかもしれませんし、お金をかけずに一定の企業と協力してできることもあると思うのですが、部長さんいかがでしょうか。

○健康福祉部長

人口減少問題対策本部、そして少子化総合対策懇話会で市民の皆さんからもご意見を頂戴しまして2回目を年内に終えたところです。総合的な少子化対策のひとつとして、結婚支援、妊娠出産の不安感と負担感の解消、そして子育ての不安感と負担感の解消がありますが、その中の大きな柱立ての1つとして企業経営者に対するワーク・ライフ・バランスの働きかけというのがあります。

子育て支援課の方でも、希望する企業への出前講座等を行っておりますが、委員がおっしゃっているのは広く事業主さんの意識を変えていくということですので、これは商工サイドと商工会議所も含めて、目指すところは同じですので、そこはご意見を

いただければと思いますし、実際、どのようなシステムで進めていくかというところまでの検討には至っていないのですが、重要課題としては認識しておりますので、ただいまのご意見については十分参考にさせていただきたいと思います。

○武田会長

ありがとうございます。先ほどの北谷委員のご意見も重要で、就業規則さえも整備されていないというのは、そもそも論として大問題なので、そこは商工サイドなのか労働基準監督署なのかわかりませんが、本社が酒田にないところもという課題もありますし、ひとり親世帯のことを考えるとかなり深刻になります。

ただ、皆さんでアイデアを出し合って一緒にやっていくしかない、情報発信し、実行していくしかないのかなと思います。先ほどのダイジェスト版をどこに配布するかということについても、もしかしたら事業所に配布してもらおうということも効果的なかもしれませんし、そういったところもアイデアを出してやっていかなければならないのかなと思います。

村上委員から、何かありますでしょうか。

○村上委員

やはり働いている我々自身がこの計画のことをなかなかわかりづらいとか知りづらいということも結構ありまして、こういうものをHPを見ている人は見ているのですが、見ていない人は見ていないものですから、できればわかりやすく末端までいくようなやり方を検討いただければと思います。

○武田会長

岩間さんお願いします。

○岩間委員

興味がある企業はいろいろと取り入れてやっていますが、全く興味がない企業には逆にペナルティを与えるくらいのことをやっていかないと変わっていかないと思いますので、そういった部分で商工会議所でもリストの提供等、協力できることがあれば親会にも働きかけていきたいと思います。企業に対しても文書等ではわかりにくところもありますので、どういった利点があるとか、わかりやすい情報の提供を検討いただければと思います。

○武田会長

今日欠席ですが、櫛引委員の酒田青年会議所の方でも、岩間委員も一緒ですが、今年青年会議所さんで学習支援についてシンポジウムを開催していただきました。私も参加させていただいたのですが、青年会議所さんでは多岐にわたるテーマを取り上げ

ていこうという姿勢があるので、ワーク・ライフ・バランスについても今後もぜひ継続的に取り組んでいただければとお願いしたいところです。女性の会員を集めたいというところもあるでしょうし、事業主になられる方も多くいらっしゃるので、若い世代でシンポジウムを開くだけでも男性の皆さんと問題を共有することができるというところで、またご相談をしたいし、できるところから実施していただければと思います。

では、少しテーマが変わるかもしれませんが、加藤委員をお願いします。

○加藤委員

先ほどからお話を伺ってまして、酒田市でもできることがあるのではないかと思う点があります。というのは入札について、県では子育て支援について就業規則に盛り込むなどしている場合には有利になるという取扱いをしているので、市でもそうした取扱いをすることで、子育て支援に取り組む事業所を増やせるのではないかと思います。

あと、ホームページの話が出ていましたが、県もそうだが酒田市のホームページも必要なページを探しづらいです。なのでリンクを貼るときに、探しやすいように貼っていただきたいです。先ほどQRコードという話もありましたが、一発で見れるような工夫をしていただきたいです。行政はあれもこれも網羅したいという思いから、今のページのようになっていると思いますが、なるべくなら大事なものはすぐに飛べるようにしてほしいです。

あと、赤松委員から、広報誌の最後のページに虐待の通報先を載せてはどうか、というご意見がありました。非常によい意見だと思うので、ぜひご検討いただければと思います。私も要保護児童対策協議会の委員をしていますが、山口委員と同じでPRが不足しているのではないかという思いです。2ヶ月に1回やっているのに、市民になかなかそういった部分が伝わっていないので、そのあたりも上手くPRしていただければと思います。

○武田会長

重要なご意見をたくさんいただきました。石垣委員、お願いします。

○石垣委員

休日保育についてですが、需要が多く、年末年始も1月1日以外は予約が入っている状況で、この期間だけ少し値段を上げたのに利用者が多いことには驚いている状況です。

休日保育の実施個所について、31年度まで2カ所増やすという数値目標を立てられているということで、これについてご提案です。

にこっとの場合、ワンフロアで乳幼児から小学校低学年くらいまでを預かっている

という状況があり、小学生は宿題もしたいというところなのですが、小さい子どもたちからは何をしているの？ 僕にも書かせて？と邪魔されたり、なかなかそれぞれの年齢に応じた保育が難しい面があります。

新たな施設整備の際には、保育の質も考慮して、年齢ごとに預かりの場所を変えられるような配慮をご検討いただければと思います。

○武田会長

「にこっと」さんでは、地域のパイオニア的にいろいろな事業を受けていただいています。にこっとさんの仲間になるような担い手を、例えば中間年頃までに1カ所みんなで育てていくといったこともこの計画の推進には必要になると思いますし、異年齢の利用に配慮した整備も必要ということだと思います。

○事務局（子育て支援課長）

「にこっと」さんには、かゆいところに手が届くというような支援をいただいていると思います。今お話しいただいたことも念頭に置きながら、今後検討していきたいと考えております。

○武田会長

今後、地域資源の活用を考えていくと、コミュニティの中に空き家もたくさんある状況です。にこっとさんでは空き店舗を活用して実施していますが、今後そういう整備を検討する際にはそういう視点も必要なのかなと思います。山口委員、お願いします。

○山口委員

資料を読ませていただいて2点お願いしたいことがあります。

1つはP.49、No.39、障がい児の受け入れ環境を充実します、というのがどういう環境なのかということをお伺いしたいです。酒田市には特別支援学校ができましたが、幼稚部には聴覚障がい教育部しかありません。聴覚障がい以外のお子さんは、はまなし学園を中核に、幼稚園、保育園、認定こども園で受けていますが、先日、はまなし学園の園長先生ともお話ししてきたのですが、もう人数がいっぱいということでした。受け皿がないので、この子はこちら、この子はそちらというように各園で受け入れできないか、保護者とも協議しながら検討しています。

受け入れ態勢の充実については、まず必要になるのは人的な充実です。障がいのあるお子さんを受け入れるためには、その子に専属のスタッフを一人つける必要があります。そのための支援を県の方にもお願いしていますが、ぜひ、はまなし学園の実情を踏まえて、今もはまなし学園からの転園の話があるのですが、そういった職員配置に対する支援を充実して欲しいところです。

2つ目は、P.78、No.188 のいじめ対策連絡協議会の進め方についてです。いじめに

ついては、今、県内の他市でも話題になっていますが、その状況を知り合いに聞いても、教育委員会からはなかなか情報が出てこない、という状況が当初は問題だったということでした。受け皿は外部でないといけないのではないか、例えば子育て支援課や例えば市民課でもいいと思いますが、受付窓口は教育委員会の他に設けるということをひとつ取り組んでいただきたいと思います。協議会自体は教育委員会でいいと思いますが、情報を開示していくためには、やはり窓口を外部に広く取っていただきたいと思いますので、協議会の検討にしていきたいと思います。よろしく願いいたします。

○武田会長

大変重要な意見だと思います。子育て支援課だけでなく、庁内で連携していくべき課題だと思います。今の山口委員の発言は、ご提案ということでぜひ前向きに進めていただければと思います。大滝委員お願いいたします。

○大滝委員

今のご意見に関連して、医師会としても、小学校に入るまでは、保健師さんを中心に手厚く子どもたちを見てくれるのですが、小学校に入ると全くそういうことがなくなってしまいう状況があります。

縦割り行政の悪さなのでしょうが、厚生労働省と文部科学省の管轄違いというところもあって、幼稚園、保育園にいる間は、知的障がいのあるお子さんについては保健師さんたちが一生懸命にフォローしているのですが、小学校に入ったとたんその子たちのフォローを誰がするのかということは、全く手付かずになってしまっているという気がします。

前のこの会でも言ったんですが、酒田市の学校に入るときの就学児委員会に医師会が加わっていないので、幼稚園のときに3歳児検診で自閉症気味という診断を受けた子が、どこの小学校の普通学級に行っているのか特別支援学級を新設して行っているのか、それすらも医師会に情報が入ってこない状況です。

後になってお母さんたちから、実は特別支援学級を新設してもらってうちの子どもが入れるようになりました、という話を聞いても、誰の意見を聞いて特別支援学級が新設されたのか尋ねてもわかりません。

この計画の中に、小学校と連携するという表現が入っていますが、子どもは赤ちゃんから自立するまで一連してずっと見ていかなければいけない。この会でも幼稚園や保育所関係者はずっと来ていますが、教育関係者からも出ていただいて、連続性についても議論していかなければならないし、保健師や幼稚園、保育園から小学校の教諭や養護の先生にしっかりと引き継いで受け渡しをしていかなければいけないのに、そこが小学校で切れてしまっているような印象を受けています。

せっかくの子ども・子育てですので、幼児期以降、小学校に入ってから、まして

や小学校との連携を謳う以上は、縦割り行政の壁や、学校の壁はなるべく取り払って、一人の子どもが大人になるまで、物的な面倒だけでなく、切れ目なく細やかにフォローをしていくという計画にしていくことは必要であると思います。

○武田会長

ありがとうございます。健康福祉部長、どうぞ。

○健康福祉部長

福祉課の中に発達支援室があります。これは、関係機関との情報の共有を通じて、子どものおきだけでなく、お子さんの成長に応じて切れ目のない支援を続けていくために設けたものです。その中で、まだ不十分ですが、学校関係と連携を取って、必要な情報を提供していくということも大事な役割だと思っていますので、なお今の話は教育委員会にも十分伝えさせていただきます。

○武田会長

ありがとうございます。私も大学の仕事で発達支援室と関わったときにすぐに学校教育課につないでいただいたり、限られた人員ではありますが、よくやっているといます。もう少し体制的な問題があるというところと、あと、私は大滝先生には就学児委員になっていただきたいと思っています。

最後に言おうと思っていたのですが、先ほど長村補佐からもお話があったように、今年度は分科会を作らずに会議をやってきましたが、来年度に向けて計画の内容は概ねベースの部分は入っていると思うのですが、具体的にというところでは皆様からご指摘がありましたように、どのような施策でどのように進むのかというところに関して大変気になるところだと思います。

私からの勝手な提案としては、ただ今の「特別な支援が必要な子ども」、それと「ワーク・ライフ・バランス」、あと今日は齋藤委員が欠席で大変残念だったのですが「地域との連携」、社会教育課さんの資料によると地域コミュニティセンターや振興会で毎年多くの子どもに関する事業を行っているのに全然共有できていなくて、乱暴な提案として、そうした事業を行っているコミセンなどをすべて子育て応援団に認証していけばいいと思うのですが、そんなことも含めて、いくつかの重点プログラムを切り口に、小グループでより密な議論をすることで、事務局からはこの一年いっしょにやってきてやる気を感じるので、そうしたワーキンググループ的なところでいくつかのテーマに絞って、「学童保育」も入るかもしれませんが、検討ができれば、櫛引委員からご提案のあったこの会議の発展的な部分にもつながると思いますし、大滝委員からいただいたところにもつながっていくかと思っていますので、私から提案いたします。それでは、宮田委員お願いします。

○宮田委員

膨大な資料ですが、前計画の概要版と見比べながらひと通り目を通し、こういった形でまとめられた事務局に敬意を表したいと思います。思ったことを2、3述べます。

私共の子ども会育成連合会は「地域の子どもはみんなの子ども、感性豊かな子どもの芽を」ということで「遊びは学び、楽に楽しくボランティア」という発想でやっております。旧市の組織は大体、私どもの組織に入っていて、1,000人くらいの保護者の皆さんが各地域でリーダーシップをとって活動していただいています。その保護者の子どもたちが全員会員になって、活動していただいているので、そうした意味で非常に組織力のある会だと思っています。単年度で交代される方もいますが、1年間の経験を積まれた方は地域の別の活動で活躍されるということで、層の厚さと底辺の広がりを図って活動を続けております。皆さんからいろいろとご理解とご協力をいただき、この場を借りて感謝申し上げます。

いろんな事業をやっておりまして感じるのは、今、少子化の中で子どもたちが少ない、当然親にどんどんいろんな負担がかかってくる、そうして若いお父さんお母さんが、地域の中で一番大事なこうした活動に関わることに積極的に手を挙げていただけなくなってきております。

ですから、それを是正する意味で、私は前々から提言しているのですが、子育てが終わったシルバーエイジの方々からどんどん、次代を担う子どもを健全に育成する私共の活動にサポーターとして入っていただけるような手立てをしておりますし、自治会の皆さんにはそれを強力にお願いしております。したがって、自治会の中に青少年育成部や子ども育成部等を組織いただいて、さらにそれを束ねるコミセンにもそういった組織を作っていただけるようお願いをし、相当そういった意味では、まとまりのある形になっていきていると思います。

ただ、やはりシルバーエイジの方の中には、自分の趣味の世界に生きておられる方も多くなっており、地域の中で子どもを育てるとは言いますが、ごく一部の方々がそうした手を差し伸べているというだけで、多くの大人の方々は我が道を行くというような状況になってきているのではないかと思います。

そういった意味で、こういう大きなテーマでどうしていくか私共ではいろいろと話し合いをしますが、今回このような資料の提示をしたわけですが、これをどう一般市民に知らしめていただいて、地域や地域の組織を挙げてこの問題を一人一人が真剣に考えていくか、いかにいかで、この資料が生きてくるかどうかが決まってくると思います。当然、パブコメも明日から1月16日まで募集するという話でしたが、どのくらいの市民が意見を出していただけるか、その辺の数にもよると思います。

この前、締め切られた学校のいじめに関するパブコメ（※事務局追記：酒田市いじめ防止基本方針案）についても、私は意見を提出し、私共の組織に関連する資料・会報等を参考資料として出してきました。

今回、特にこの資料にもいじめ問題対策協議会の記載もありますので、県の指導も

あるものと思いますが、市としてもこうした話題に積極的に取り組む機運があるということを楽しんでいます。いじめの問題については、小学校の児童生徒を対象として、学校教育課が担当していますが、私はそれだけでは不十分で、子育て支援課が幼児を対象として、幼稚園、認定こども園、保育園と連携し、自我意識が芽生えて、協調性よりも自分が自分という段階が幼児だと思うので、その辺からいじめが芽生えてくるのではないかと考えましたので、学校教育課と子育て支援課が連携をして、対象範囲を拡げていただけるような対応をとっていただけたならば、学校に入ってからいきなりいじめ問題の対応をするよりも、その前の段階でできるような手立てを実施することによって、少しでもその芽を防いでいくことができるのではないかという内容の意見を、パブコメで提出したばかりです。

それと、今、草の根ネットワークということで、庄内地区では高齢者福祉事業が進んでいたわけですが、特に自治会でも地域のお年寄りを地域で面倒をみるような、そういうネットワーク作りがだいぶ進んでいると私も認識しています。ただ、幼児や子どもに対する同様のネットワークはどうかというと、高齢者向けの対応がずっと先行してきていて、やっと子どもにも目を向けられるようになったところではないかと思えます。これは、前々から市の計画等が出ている方向性ではあるのですが、問題はこれらの資料をどれだけの市民が目を通して、自分の問題として意識されているかどうか、非常に私は不安です。

広報でもいろいろと問題提起をしておりますが、果たして一生懸命に広報を作っておられるのですが、どの程度見られているのかは疑問です。

ニーズ調査の結果を見ても、情報提供の仕方に不満があるという割合が多い等、自分の問題なのに他に責任を転嫁するような傾向もやはり人間にはあるのかなと思われまます。

ですから、私たちはそれぞれの組織なり代表としてこの会に来ているわけですので、私も他の審議会等に参加した際にも、自分で発言した情報、他から聞いた情報はすべて自分の組織に下ろして、酒田が今こういう風な大きな問題を抱えているので、私個人として、また組織としてどう対応したらいいのか、これを真剣に考えないと、ただ会議に参加して意見を言って終わりでは、本来の目的から外れるのではないかと、という提案を以前もしております。

皆さんも同じような認識をしておられると思いますので、パブコメの後、2月以降会議や議会等で正式に生きていきますので、自分が住んでいる地域の一員そして組織の一員として、この問題をいろいろ他に知らせるような手立てをいろいろとしていかなければならないのではないかと思います。

最後にひとつですが、いろいろな研修会等が開催されていて、新聞や広報などに予定が載っています。私も時間があれば、なるべく参加しますし、私共の組織でも小学生中学生を対象にリーダー研修や指導者研修などをやっていて、関係機関に案内をしていますが、なかなか来てもらえません。私が一番お願いしたいのは、市職員の皆さん

んにいろいろなイベントに参加いただいて、我々と同じ目線で研修をして、自分の経験をどんどん積んでいただく、そういうことをすることによって、いろいろと話し合われていることが生きてくるのではないかと思います。酒田も消滅都市の予測の中に入っているわけです。今これを自分なりに咀嚼して、他に啓発していかないと、時間も早まる可能性が十二分にありますので、そういうかたちで、皆さんお互いに、子どもと子育てのために邁進していきたいと感じております。

○武田会長

大事な呼びかけ、ありがとうございました。武田委員お願いします。

○武田世津委員

子育てについては、地域の中での支援、施設の整備、ソフトの周知、ワーク・ライフ・バランス、そういったところが県の子育て推進会議でも同様に話題になっているところです。

酒田市の取り組みの中では、発達支援室を置いているというところは、県内でも特化した取り組みになっていると思います。大滝委員からもありましたが、乳幼児期にきめ細やかにみるということについては、県内どこでも乳幼児健診を中心に取り組んでいるところでありますし、それを就学につないでいくというところでも連携会議をどこでも開催しているところですが、酒田市では発達支援室でお子さんにもそうですし、保護者の方々にも様々なスキルをトレーニングする機会を用意されたりということが素晴らしい取り組みではないかと私は思っています。

ワーク・ライフ・バランスにつきましても、資料にもあるとおり、県でもいきいき子育て応援企業の制度を設けまして、庄内にも積極的に子育て中のお母さんたちを応援しながら就業いただいている企業もありますので、そういったところの紹介なども市民の皆さんや企業の皆さん等に情報提供していただける機会もあるといいのかなと思います。

広報活動としても、山形みんな子育て応援団ということでYBCで日曜夕方 5:15 からTVでPRをしていまして、就業している方にも子育てに関する情報をご覧いただけるよう深夜帯にも再放送をしております。

様々な分野からたくさんの意見が出されながら計画が策定されることに対して、非常に力強い皆様の意見が私も頂戴できたと思います。ありがとうございます。

○武田会長

副会長の佐藤委員に、最後にお気づきの点等があればお願いします。

○佐藤委員

大滝委員からおっしゃっていただいた障がい児に関するご意見について、途切れ途

切れではなく、一貫した事業というものが重要だと思えますし、それを支えてくれるマンパワー、例えば、保育士さん、医療機関でいえば看護師さん、そういった方を要請するような何か手立てが欲しいなと思っています。

3番目としては、この事業計画が本当に市民に浸透するように、私たち委員20人から始めてみて、こういうことをしているんだということを周知していきたいと思えます。

学校教育課さんは今日いないわけですが、校長先生だけでは難しいところもあると思えますので、参加いただければと思えます。

あと前回、健康課長ともお話したのですが、レジリエンス、打たれ強さとかそういう教育というのにも必要だと思えます。しなやかな心、あとはボールのようなはずむ心、あとはアスファルトでも咲くようなタンポポのような適応力、そうしたレジリエンスについても学校教育等にだんだん必要な時代になってきているのかな、というふうに思いました。

○武田会長

ありがとうございます。どういう子ども像か、そういったところも教育関係者といっしょに子ども・子育て会議で議論していかなければならないところだったのかなと、今日皆様の話をきいて改めて感じました。その中で、保護者の皆さんにも積極的に参画していただけるような体制づくりを新しい計画の中でどのように構築できるのか、働く体制づくりも含めてですが、ということも改めて認識したところです。

何か最後に皆様からありますでしょうか。

○岩間委員

私からは、前回の会議の際にチラシの配付をしました東北青年フォーラムの御礼ということで、時間を頂戴します。9月6日に東北青年フォーラム、東北6県の青年会議所が集まって東北大会が行われました。そこで、メインフォーラムということで、ワーク・ライフ・バランスの推進を柱に開催しまして、当日は950名を超える方に参加いただき、委員や市職員からもご参加いただきまして、大変ありがとうございました。金美齢さんの基調講演と、第2部ではワーク・ライフ・バランスの先進事例に関わる方を交えてのパネルディスカッションを行い、アクションプランを提案させていただきましたが、事業をする中で自分もいろいろと勉強することがありましたし、まだまだ勉強不足なところもあったなと痛感したところです。

これからも、そうした先進事例を酒田の企業がたくさん出していけるような地域にしていけたら、もっともっとよい雇用主と従業員との関係、また地域との連携をして、子どもたちのためになるような酒田市になるのではないのかなと思っています。時間のない中ご協力いただきありがとうございました。櫛引理事長に代わって御礼申し上げます。

○武田会長

ありがとうございました。大変心強いメンバー、委員がたくさんいらっしゃいますので、これからもぜひつながっていきたいと思います。どうもありがとうございました。それでは、議事 2 その他については何かありますか、なければ議事を終わりますして、事務局に進行を返したいと思います。皆様、スムーズな議事の進行へのご協力をありがとうございました。

○事務局（子育て支援課長補佐）

皆様、長時間にわたりありがとうございました。会議につきましては、今年はこれで終わりですが、来年もう一回予定しております。日程につきましては事務局案として平成 27 年 2 月 5 日（木）午前中ということで考えておりますので、皆様に調整いただければと思います。場所については改めてご連絡させていただきます。

今回の内容につきましては、計画の最終的な細かい部分のチェックをしていただくということと、この会議は諮問機関ということになっていますので市長に対する答申についての原案を確認していただきたいと思っております。

子ども・子育て会議につきましては、昨年 11 月から始まり、幾度にわたってご審議をいただきました。本当にありがとうございました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

【 午後 0 時 05 分閉会 】